

群 教 セ	G11 - 02
	平14.206集

自分にあった進路選択を 行おうとする生徒の育成

— 自ら設定した『高校の条件』を活用して —

特別研修員 大澤 好則

《研究の概要》

本研究は、中学3年生を対象に、『高校の条件』と称して自ら設定した高校に求める条件を通して自分を見つめ、自己の理解や高校の理解を深めながら、より自分にあった進路の選択を行おうとする生徒の育成を目指すものである。進路への意識が弱い生徒が、自己を振り返りながら条件を見直し、よりよい条件へと練り上げながら意識を高め、情報収集によって得た高校の特徴と自分の適性を結びつけて進路を決定していく活動を行った。

【キーワード：進路指導 中学校 学級活動 進路選択 自己実現】

I 主題設定の理由

中学校時代、自分なりに一生懸命進路について考え卒業していった生徒が、高校へ入学して1年もたたないうちに学校をやめたという残念な話を聞くことがある。本校の卒業生だけでなく全国的に高校生の中退者数の増加が示すように、せっかく高校に進学しても、高校での生きがいや目的を見失ってしまい、自ら退学してしまう生徒が多数いる。そのようなニュースを聞くたびに中学校での進路指導の重要性を改めて実感する。

中学校の進路指導は、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択できるようにさせることが求められている。本校においても、1年生で、自己理解・職業調べ、2年生で職場体験学習を通した職業観の形成・上級学校調べ、3年生で高校体験入学・進路決定と系統的な進路学習を行い、自分の人生を自分で切り開くことのできる生徒の育成を目指している。

本学級において5月に行った進路のアンケートでは、全員が中学卒業後高校進学を希望している。ところが、具体的に行きたい高校が決まっている生徒は少なかった。進学したい理由についても、将来を見通して考えている生徒はあまり見られなかった。理由の中には「家から近い」とか「制服がかわいい」といった自分の生き方にあまり関わらない項目を挙げている生徒もいた。自分の進路を自分で見つけるという意識が弱かったり、将来の夢や希望を持てていなかったり、高校についての知識が不足していることが一因であると考えた。

そこで、目前に迫ってきた高校進学に視点をあて、「なぜ進学しようとしているのか」「どのような高校に進学したいのか」「高校で何をしたいのか」と自分に問いかけ、自己の適性や将来の生き方について考えを深めながら、進路に対しての意識を高めていく。そして、体験入学や Web ページなどから行きたい高校の情報を収集して高校の理解を深めることにより、自分の適性と高校の特徴を結びつけ、自分にあった進路を選択できるようにしたいと考える。

進路選択は、その選択の違いで単に進路先が変わるのではない。自分の適性を伸ばしたり、夢を現実のものへとするために羽ばたいたりする大きなチャンスであると考えた。改めて自己理解を深め、自分の将来を見通した望ましい進路の選択をするとともに、進学した後も目的を持って充実した高校生活が送れ、さらには将来の生き方を自分で切り開くことのできる生徒に成長してほしいと考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

学級活動「進路について考えよう」において、自ら設定した『高校の条件』をもとに、自分の現在や将来の生き方についての考え方や理解を深め、また、体験入学や Web ページ等での情報収集により高校の理解を深めれば、自分の適性や目的と行きたい高校の特徴を結びつけて考えられるようになり、自分にあった進路選択を行おうとすることができることを実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

- 1 学級活動①において、自ら設定した『高校の条件』が今の生き方や将来にどのように関わっているのかをまとめ、班で意見交換を行い、いろいろな考え方に気づき、『高校の条件』をよりよい条件へと練り上げていくことにより、自分の適性や将来をよく考えた進路の選択が大切であることに気づくであろう。
- 2 自ら設定した『高校の条件』を中心に体験入学や Web ページで情報収集を行い、学級活動②において各高校の特徴を整理し、自分の適性や目的と関連させながら高校でのやりがいを見つけることにより、進路候補としている高校の理解がさらに深まるであろう。
- 3 学級活動③において、役割演技「模擬面接」における発言の内容を評価し、その後自分にあった高校を決定するために大切なことについてまとめ、『高校の条件』をもとに調べてきた内容を盛り込んだ志願理由を作成することにより、自分にあった進路選択が行えるようになるであろう。

IV 研究の内容

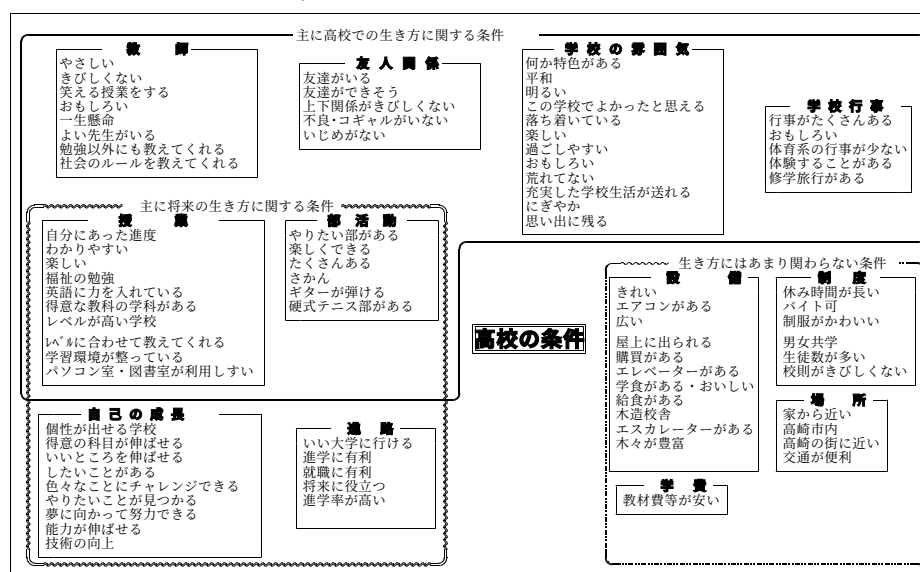
1 基本的な考え方

(1) 『高校の条件』とは

自分の適性や将来を見通して進路を考えることは大切である。しかし、自己理解がきちんとできている生徒や将来の夢や希望を具体的に抱いている生徒は少ない。そこで、目前に迫った高校進学に視点をあて、生徒の意識を高めるために高校の条件を考えさせる。

「あなたの行き

資料1 高校の条件(学級全体での集約)



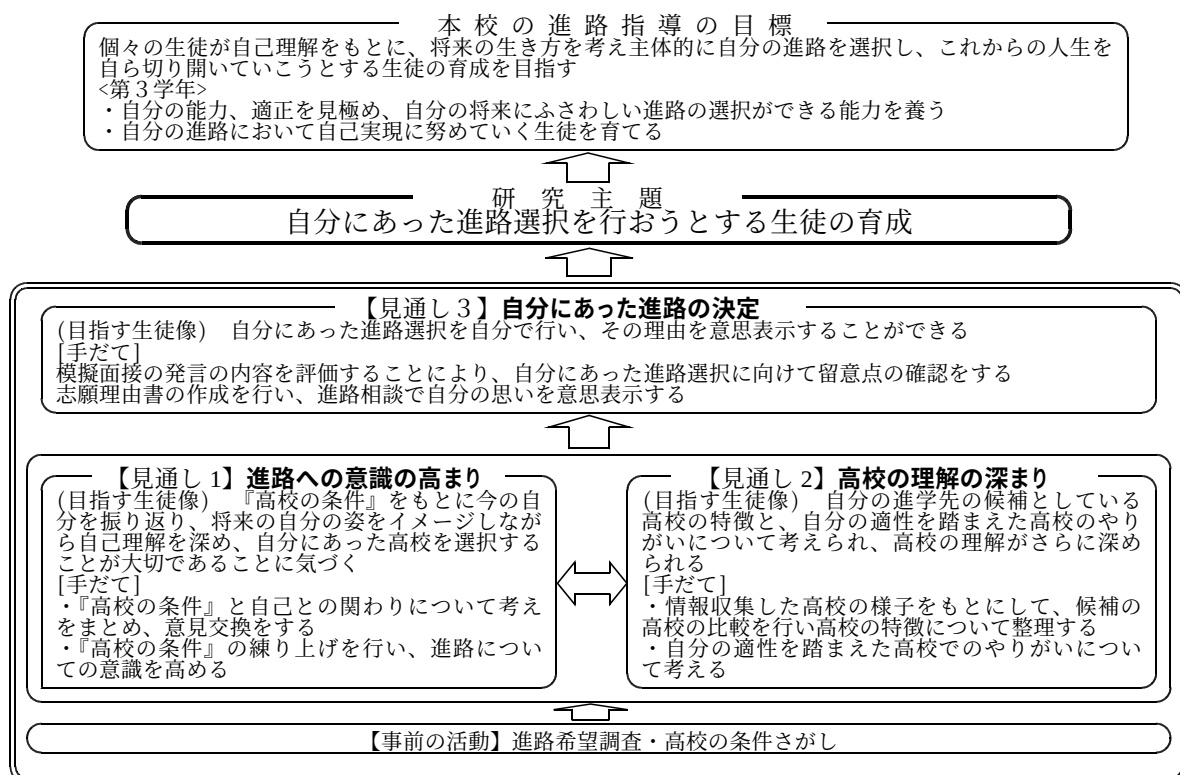
たい高校はどのような学校ですか」という問いに対し、生徒が自由に挙げた条件を『高校の条件』とする。言い換えると生徒が高校や高校生活に求める条件と考える。高校という、第三者的な存在に求める条件として考えさせることで多様な考えを引きだせる。生徒が挙げたたくさんの条件をグループで集約しさらに学級全体でまとめる（資料1）。その中から5つの条件を選び、自らの『高校の条件』として設定する。

そして『高校の条件』をもとに、自己の現在と将来の生き方について考えたり、体験入学やWeb ページ等で情報を収集したりしながらよりよい条件へと練り上げていく。これらの活動により、生徒は進路の選択にあたって自己の適性や将来を見通し、それらに基づいて自分にあった高校を模索するようになる。また、『高校の条件』を高校に求めるだけでなく、自分が主体的に努力してその条件をかなえることが大切であることに気づき、『高校の条件』を「自分の(自分に課せられた)条件」として受け入れられると考えた。

(2) 自分にあった進路選択とは

自己の適性や将来の希望と志望する高校の特徴が一致して選択できるとともに、その高校に進学した後も充実した生活が送れると決心できた状態と考える。志望理由書や進路相談で「今の自分は〇〇で、将来△△のような(ができる)大人になりたいので、□□が伸ばせる(が充実している)☆☆高校に進学したい」というような表現で意思表示ができるようにさせたい。自分にあった高校であるかどうかは、進学してからの本人の生き方が深く関係するが、自分の適性をよく考え高校の特徴を真剣に調べ、進路を決める段階では、自信を持って自分にあった高校であると言えるようにさせたい。

(3) 全体構想図



2 実践の概要及び結果と考察

考察にあたっては、『高校の条件』の変化の様子やワークシートに書かれた記述を中心に、中学3年の学級全体及び、抽出生徒A男の変容をとらえていく。

A男は、5月当初の進路アンケートでは、S高校を希望校としてあげていた。しかし、志望理由としては、姉が通っているからとか、家から近いからという内容で、自分の生き方や学校生活の充実などの観点からは進路を考えていない。

(1) 『高校の条件』を練り上げていくことで、自分の適性や将来をよく考えて進路の選択をすることが大切であるということに気づくことができたか。(見通し1)

ア 実践の概要

『高校の条件』と現在の生き方、及び、将来との関連について考え、それについてグループで意見交換を行った。級友の考え方を知ったうえで、自分が選んだ『高校の条件』の見直しを行った。

イ 結果と考察

グループ内の意見交換での感想では、「将来のことまで考えているのはすごい」「将来のために学習に力を入れている高校を真剣に希望してえらい」などの意見が見られ、将来のことまでよく考えて、進路を考える重要性に気づく生徒が増えた。

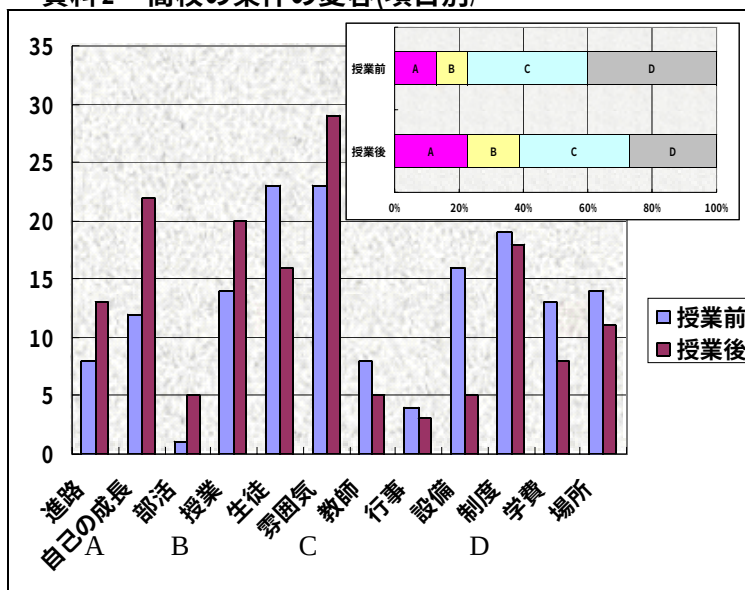
各自が設定した5つの『高校の条件』の変容については、授業前は自分の生き方とはあまり関係のない制度、設備、場所などのDの項目が多く見られた。級友との意見交換後、『高校の条件』について見直しをしたところ、Dは40%あったのが授業後は27%に減り、A B Cの3つあわせた自分の生き方に関わる項目は60%から73%に増えた。特にAの将来の生き方に関わる条件は20%から35%に増えた

(資料2)。具体的には「個性が伸ばせる」「進学に有利」などの条件が増え、「学費が安い」「バイトができる」「エアコンがある」などの条件が減少した。今回の授業を通して、「設備等の条件で学校を選ぶのはあまり意味のないことである」「もっとよく考えていかなければならない」「自分が行きたい学校をもっとよく知りたい」などの感想が見られた。

進路選択を行う際に関してA～Dの項目はどれも大切な条件ではある。AやBの項目が増加し、Dが減少したのは、『高校の条件』の見直しを通して、自分の生き方を見つめ直したり、将来についてよく考えたりした結果、『高校の条件』をよりよく生きるための条件や自分の適性が伸ばせるような条件にしよう意識が高まったためと考えられる。また、夏休みを中心に行われた高校1日体験入学への参加状況が、一人平均3.8校と昨年の1.8校と比較して大幅に増加したことも、より自分にあった高校を見つけようとする意識の高まりとして裏付けされる。

A男は始め、『高校の条件』として、「夢に向かって努力できる」「友達ができる」「この学校でよかったと思える」など、将来や高校での生き方に関わる内容と、「男女共学」「学費が安い」などの生き方とはあまり関わりがないような条件を挙げた。グループ内の意見交換では、

資料2 高校の条件の変容(項目別)



※表の項目

A:主に将来の自分の生き方に関わる項目 [進路・自己の成長]

例 能力を伸ばせる 夢に向かって努力できる 進学に有利である 等

B:高校での生き方に関わるが将来の生き方にも目を向けている項目 [部活・授業]

例 得意な教科の科目がある やりたい部活がある 等

C:主に高校での生き方に関わると思われる項目 [生徒・雰囲気・教師・行事]

例 充実して過ごせる 友達ができる 楽しい よい先生がいる 等

D:生き方とはあまり関わりがないと思われる項目 [設備・制度・学費・場所]

例 バイトができる 学費が安い 家から近い 制服がかわいい 等

注:学費については、本人だけの問題ではない条件でもあるが、生徒が条件として選んでいるのでそのままのせている。

自分の考えを積極的に話すとともに、級友の意見にも真剣に耳を傾けていた。感想の中に「自分の今の現実をきちんと受けとめ絶対に悔いの残らない進路選択をしたい」と述べている。また、『高校の条件』を振り返ったところ、「男女共学」の条件の代わりに、高校だけでなく将来も続けたいという理由から「部活に全力をそそげる」という条件を加えた(資料3)。自己理解が深まり自分の適性を見極めた進路選択をしようとする気持ちが高まったためと考える。

以上のことから、高校の条件についてグループで意見交換を行い、高校の条件を振り返らせた活動は有効であったといえる。

(2) ワークシートに進路先候補の高校の情報を整理し、その高校の特徴を比較したり、やりがいを見つけたりすることにより、それぞれの高校の理解が深まったか。(見通し2)

ア 実践の概要

夏休みに行われた体験入学で調べてきたそれぞれの高校の情報を、1枚のワークシート(資料4)にまとめ、他の高校と比較したり、やりがいについて考えた。

イ 結果と考察

1日体験入学において、ほとんどの生徒は、自分が進路候補先として考えている高校へ積極的に参加して、5つの『高校の条件』を中心に情報収集を行った。「友達ができそう」

などの判断しにくい条件は、対応してくれた在校生の様子や学校全体の雰囲気などから感じ取っていた。調べられなかった内容については、友人と情報交換を行ったり、Web ページ上で調べたりしながら進路先についての理解を深めた。調べた内容をもとに、各学校でのやりがいについて考えた。やりがいとしては、「総合学科で芸術・音楽を選択して自分の夢がかなうようにがんばりたい」「ボランティア活動に力を入れているので人の役に立つようがんばりたい」「情報技術のことをいろいろ学びたい」などの意見が見られた。

A男は、5月当初は1つの高校しか希望になかったが、3校の高校に体験入学に出かけた。ワークシートには『高校の条件』に沿って高校の様子を調べていた。体験入学の感想では、S高校は、「この体験を通して、行きたい気持ちが2倍にも3倍にもふくらんだ」T高校は、「電気科でのロボット制作に非常に興味を持った」U高校は、「設備などは大変充実していた」と、それぞれの高校に対して思いを深めた。高校でのやりがいについては、「総合学科を通して自分の興味を持っている科目に精一杯取り組む」「資格をたくさん取るようにする」「部活と勉

資料3 A男の『高校の条件』の変容

	6月	7月	9月
A:	夢に向かって努力	夢に向かって努力	夢に向かって努力
A:			個性が伸ばせる
B:		部活に全力をそそげる	部活に全力をそそげる
C:	友達ができる	友達ができる	友達ができる
C:	よかったと思える	よかったと思える	よかったと思える
D:	学費が安い	学費が安い	
D:	男女共学		

資料4 高校体験入学に関わるA男のワークシート

「高校の条件」・・・高校でのやりがいについて考えよう

□自分が考えた高校の条件をここに記入し、自分が実際に必要としている条件を見つけよう。

① 部活に全力をそそげる
② 友達ができる
③ 学費が安い
④ 個性が伸ばせる
⑤ 将来に役立つ

□高校について調べたことをここに記入しよう。

S 高校
T 高校
U 高校

□やりがいについて調べる

強に精一杯取り組む」など自分の適性や興味と高校の特徴を踏まえ、やりがいを考えることができた。

以上のことから、『高校の条件』をもとに観点を絞って情報収集を行ったことで、より具体的に高校の特徴を知ることができた。また、複数の高校を比較したことはそれぞれの高校の特徴を理解することにつながった。これにより自分の適性をどう生かすか具体的なイメージを持つことができ、それぞれ自分の適性に沿って高校のやりがいを見つけることができ、高校の理解が一層深められたといえる。

(3) 模擬面接における発言の内容を評価し、その後自分にあった高校を決定するために大切なことについてまとめ、志願理由書の作成を行うことで、自分にあった進路選択を行えることができるようになったか。(見通し3)

ア 実践の概要

模擬面接での受験生の発言の内容に着目させ、それぞれの生徒の発言の違いを評価した。それをもとに自分にあった高校を選択するために気をつけるべきことについてまとめ、志望校の志願理由書を作成した。進路相談において、進路の意志を確認した。

イ 結果と考察

役割演技の「模擬面接」では4人のタイプの違う生徒(A：あまり進路について考えてない生徒、B：高校の特徴についてだけ話す生徒、C：自分のことは話せる生徒、D：自分のことと高校の特徴を関連付けながら話す生徒)を演じた。それぞれの発言の内容について評価をした(資料5)。ほとんどの生徒がDの発言を最良のものとして

評価した。その後、自分にあった進路選択するために大切なことについて、ワークシートにまとめさせた。意見として「自分がなぜ行きたいのかのかをはっきりさせる」「高校のことだけでなく将来のことも考える」「将来の夢に向かうための進路であるか、自分の意志で決めているか」等が書かれていた。これらの意見から、生徒達は自己の適性や高校の特徴を踏まえた進路選択が重要であることを再確認できたと考える。

志願理由書に書かれている内容を①自分の適性・将来、②高校の特徴の2つの観点から内容を分析した(全31名)。①は29名、②は25名の生徒が書いていた。②を書いた生徒は全員①の内容も書かれていた。その内容は、進学に関すること、部活に関すること、授業のカリキュラムに関することなど、自分の適性や将来を見通して考えたものが多く見受けられた。また、5月当初の進路アンケートでの希望理由で十数名が書いていた「家から近いから」と書いた生徒はわずか1名であった。その内容からは、自分を真剣に見

資料5 生徒から出た4人の模擬面接者の評価

- A：具体的なことが言えていない。あまり考えてない。本人の気持ちがわからない。自分の考えを入れた方がいい。
B：学校のことをよく調べてある。高校に頼りすぎている。学校の方針などをきちんと調べてある。他力本願的。
C：将来、過去のことを考えていた。自分のことを理解している。自分勝手な人間。
D：具体的にその学校の目標なども上げながら答えていた。自分のしたいことが明確に述べられている。自分の意志をしっかりと言っていた。

資料6 A男の志願理由及び進路相談の記録

志願理由書より(11月現在)

私が貴校を志願した理由は、総合学科という学科に興味を持ち、そして貴校に入学し総合学科に米青一杯取り組みたいと思ったからです。貴校の野球部は近年良い成績を収めているのを自覚し、ぜひ貴校の男子野球部に入りプレーし、貴校にしたいと思い、貴校は体育系入学に行き、非常に雰囲気良く、貴校なら3年間楽しく有意義に過ごせると思い、貴校を志願しました。

進路相談より

- ・将来については、自分の好きな野球を続けるか、スポーツに関する職業に就きたい。
- ・総合学科の中にあるスポーツ・福祉系が一番自分の個性を伸ばすことのできる場所だと思っている。
- ・友達関係については、同じ中学からの希望者も多く、その学校に通っている姉の話からもよい人間関係が築けると考えている。

つめ自分にあった高校を選択しようとした跡が見られた。さらに、進路相談において、志願理由を細かく聞いたところ、ほとんどの生徒が具体的に答えることができた。自分の適性や将来について深く考え、高校の特徴も検討して進路の選択を行っていた。

A男は、最終的に5月の進路希望調査と同じS高校を第一希望とした。志願理由書と進路相談から、5つの『高校の条件』についての考えをはっきり示すことができた(資料6)。また、5月当初理由に挙げていた「家が近いから」、「姉が通っているから」などの理由は、「あまり意味がなかった」とも話した。なぜS高校を第一希望にしたかについては、「自分の『高校の条件』に一番あった」と即答した。表情からは、自分で決定した自信と将来へ向けての期待や意気込みが強く伝わってきた。

以上の活動を通し、A男は自分が行きたいと思っていた高校について、自分の適性や将来像を見通しながら考え、自分にあった進路の選択を行えたといえるであろう。

V 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

- 自ら設定した『高校の条件』に視点をあて、自分の適性や将来像について考え、条件の見直しを行い、よりよい条件へと練り上げていく活動は、自分をもっと理解して進路選択したとか、高校のことをもっと知りたいなど、進路への意識の高まりへとつながった。
- 『高校の条件』をもとに、体験入学での情報収集活動を行い、自分が候補としている高校の比較をし、自己の適性に基づいて高校でのやりがいを考える活動は、高校の特徴をより具体的に理解するための手だてとして有効であった。
- 模擬面接での発言の内容について評価し、自分にあった進路選択のために大切なことをまとめたことにより、自分の適性と高校の特徴を関連付けた志願理由書が作成でき、自分にあった進路選択が行えるようになった。

2 今後の課題

自らが設定した『高校の条件』の提示の仕方を工夫し、生徒がさらに意欲的に自分の進路について追求することのできるような活動になるようにしたい。また、将来を見通して自分にあった進路選択が行えるよう、自己理解や高校理解を深めさせる手だてをさらに工夫したり、進路相談の充実を図ったりしながら、生徒一人一人に応じた、きめ細やかな支援をしていく必要がある。

<参考文献>

- ・『研究報告書第200集【学校経営課】』 群馬県総合教育センター出版(2002)